

保育かながわ

発行所
 横浜市中区山下町1番地
 シルクセンタービル3階
 325A号室
 一般社団法人
 神奈川県保育会
 発行人
 萩原敬三
 題字
 故内山岩太郎筆

県・市町村児童福祉 主管課長と県保育会委員との 連絡協議会

令和二年十月八日(木)に

横浜・ホテル・プラム三階
 ヨルジュサンク・イーストに
 て行われました。

県保育会・理事の渡部俊賢
 氏(横須賀市・和順保育園)の
 司会進行のもと、まず初めに
 県保育会・副理事長の宮田丈
 乃氏(横須賀市・長井婦人会保
 育園)による挨拶がありました。

新型コロナウイルス感染症
 が蔓延し、緊急事態宣言の発令
 により制約も出てきている中、
 子どもや保育士の安全対策を
 講じながら、また、生活や行事
 等も思うように進まない状況
 の中で、本日の学びを明日から
 の保育に活かしたい、との思い
 を語り開会しました。

次に、神奈川県保育会・理
 事長の萩原敬三氏(伊勢原市・
 大原保育園)により主催者挨拶

がありました。

台風や長雨・酷暑と異常気
 象が起こるなど、今年におい
 ては新型コロナウイルス感染
 症が蔓延する中で、保育行事
 も少なくなり、子どもの思い
 出作りが出来ない今日この頃、
 コロナ禍の中、いろいろな考
 えをもって保育を行っている
 ことを踏まえ、工夫しながら
 保育にあたる現場の保育士に
 感謝の意を表されました。ま
 た、東京都の園での急な休園
 等により、保護者からの苦情
 も出る中で、就労支援を行う
 保育園の在り方や保護者の苦
 情への対策も行わなければな
 らないこと、また、初めての
 ことである新型コロナウイルス
 感染症への対応をどのよう
 に行っていくのか等、多くの
 学びとしたい、と想いを語り
 ました。

次に、出席者の紹介が行わ
 れ、司会進行は萩原理事長に
 代わり、第一部・連絡協議会
 議題へと進みました。

基調講演として『保育園の
 感染症対策〜日常からしっか
 り!有事にも新型コロナウイルス
 ルス感染症にも日常から備え
 ましよう』と題し、講師に
 国立感染症研究所・感染症疫
 学センター主任研究官・菅原
 民枝氏からご講義いただきま
 した。



まず初めに、本日の会議が
 行われるにあたって、マスク
 の着用と外から室内に入る時
 手洗いを行ってもらうことを
 共有することが大前提で人が
 集まるこの会議が行えること、

この感覚をしっかり持ってい
 たいただきたいのお話から講義
 が始まりました。

そのため、「保育園では日常
 から対策を行っていくことが
 大切であること、新型コロナ
 ウイルス感染症だけでなく
 様々な感染症対策が必要であ
 り、全ての子どもたちに予防
 接種をすることが対策の一つ
 でもあること、そして、この
 新型コロナウイルス感染症に
 は罹患年齢・主な症状・感染
 経路の三つを知ることが大切
 である」とのことでした。

「コロナウイルスには、一
 般的な風邪やSARS・MA
 RS等があり、今、流行をし
 ている新型コロナウイルス感
 染症とは、COVID-19と
 いうコロナウイルスの一種で、
 健康な皮膚から入り込むこと
 が出来ず表面に付着するだけ
 と言われている。二十四時間
 から七十二時間くらい感染力
 を持つウイルスであり、発熱
 や呼吸器症状がみられる等、
 飛沫や接触により感染する。
 そのため、自らウイルスを運
 んでしまう可能性もあり、手

しガイドラインにして示していくこととなった経緯を話されました。近隣保育所や代替保育への対応、災害への適切な対応等をマニュアル作成し、危機管理対策の管轄機関とともに検討していくこと、また、共通理解の大切さを感じ検討していききたい、とのことでした。

次世代育成課長・川上氏からも各市町の意見から、新型コロナウイルス感染症対策を示すもの手順として事前に決めておくといったことは出来るかと考え、関係機関と事前確認を行えるものとし検討していく、また、関連して、保育園のサーベランス導入の検討を提案されました。

県保育会委員からも意見が交わされた後、萩原理事長より、保護者や職場からの問い合わせ・苦情があつた事例をあげ、企業（職場）にもご理解いただけるような環境づくりが必要ではないか、また、PCR検査の状況も考え保護者への協力を求めていかなければならないこと等、今後の取

り組みへの課題が挙げられた。司会進行を渡部理事に戻し、最後に総括として、県保育会萩原理事長より挨拶いたしました。

新型コロナウイルス感染症という皆が初めての対応を求められる中で、何より子どもたちが日々、幸せに暮らしているように神奈川県にも協力をいただきながら皆でスクラムを組んで対応を行っていききたい、との挨拶をもって第一部・連絡協議会は終了しました。

ジョルジュサンク・ウエストへ場所を移し、第二部・情報交換会をもって全連絡協議会が終了し、コロナ禍での学び多き貴重な時間となりました。



わたしたちの 新型コロナウイルス感染症対策

「ベルガーデン保育園」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により緊急事態宣言が発令され登園自粛要請、出勤制限など経験したことのない状況に苦慮しながら保育をしていた春。緊急事態宣言が解除され、感染対策を続けながら、登園児数が通常に戻り、新しい日常を模索しながら保育をしていた夏。今まで通りにはできなくなった行事を、子どもたちの経験を大切にしながら子どもの成長した姿を保護者と、どのように共有できるか悩んだ秋。そして冬が訪れ、まだまだ新型コロナウイルス感染症による陽性者は増え続けています。これからインフルエンザも流行する季節は見分けがつきにくいことから不安になります。私たちの保育園では、「感染拡大予防の基本」として、手指の衛生・咳エチケット・定期的な換気を行う・人と人の距離

を取る・体調不良がある時には登園や出勤しないを行ってきました。そして、やるべきことを行いながら、いつだれが感染してもおかしくない状況の中で、もし関係者が感染しても、人権に配慮した行動をとることが重要と考えています。また国立感染症研究所「菅原民枝先生」の研修で学んだ新型コロナウイルス感染症への三つの視点「保育園での発生の心構えと準備」

①最新の発生情報を収集すること、②基本的な対策を徹底すること、③子ども及び保護者が差別的な取り扱いを受けないことがないようにすること、を念頭に対策を続けています。保育園の行事については、この機会に見直しをしてこの状況が長期化することを想定して、子ども主体で行う行事になるよう検討をしています。基本の対策をしながら、保育園は子ども同士が関わり合い、学び育ち合う場所であり、「三密」を完全に避けることは困難な環境であることも実感しました。感染症予防には、保護者の理解と協力が必要になります。保護者が保育室内に入室することは、原則控えていただいています。その為、日々の活動の様子をメールで配信しています。また子どもたちの製作を廊下や窓に飾ることで保育園の雰囲気が出るようになりました。一週間設定していた保育参観は、クラス単位で日にちを決めて予約制で行いました。幼児クラスでは個人面談を設定すると参加希望者は例年より多く、保護者は保育園での子どもの様子にとっても関心があることがうかがえました。他者との意思疎通が困難な中、保護者の意見などに耳を傾けて信頼関係を深めていくことが今まで以上に大切だと思えます。これから先の不透明さに、職員も不安やストレスを抱えている現状を受け止め、重要な情報を職員間で共有し、話し合う機

会を作るようにしています。保育者もこの機会を少しでも前向きにとらえ、発想力を高められるように模索を続けています。そして非常時は、行政や地域の保育園との連携も欠かせないので、危機管理ガイドラインを新たに作成する準備をしています。有事こそ地域や組織の協力体制を強化していくことの重要性を痛感しています。

「旭保育園」

いつの間にか、コロナウイルスが私達の日常生活の中に入り込み、今までと同じには生活が出来なくなり、様々な変化がみられる様になりました。感染者も一時減りましたが、今又、全国的に増加の傾向にあり、ワクチンが供給されるようになるまで、油断は出来ません。元々保育の現場は、子ども同士、子どもと保育者が生活の中で、密接に関わり合っている密な場所です。昨年初旬、マスクや手指の消毒剤が市場から消えてしまった時は、園の在庫のマスクを職員に配布し、それぞれ手

作りマスクなどで対応しました。園では、コロナ対応品関連の補助金を使い、空気清浄器や「ミニクローラー」という除菌洗浄水生成器を購入しました。ミニクローラーは水道水とスプーン一杯の食塩で殺菌力の高い電解次亜水で、ノロウイルスやインフルエンザウイルス、食中毒原因菌などを除菌出来るので、これを最大限に活用し園内の除菌等に使用しました。現在は、子どもも大人も朝昼二度の検温をし、早目に子どもの体調変化に気付いて、家庭へ連絡が取れるようにしています。職員も普段に増して、手洗いやうがいをして体調管理に努めています。

日中の保育は、今まで通り、戸外遊びが中心ですが、全年齢児が園庭に出ると密になるので、二学年が近くに散歩に出掛けたりしています。

それも周囲が田畑という好立地にある為に出来る事です。現在百九二名をお預かりしている中、昼寝もホールで幼児が寝ていましたが、年長

児は保育室で寝てもらい、少しでも人数を減らすようにし、なるべく顔と顔の間隔をとる為に互い違いに横になって寝てもらっています。しかしながら、限界もあり、なるべく換気に努めています。

園の行事も当初中止したり、延期したりもありましたが、例年よりも参加人数を減らす中で、幼児クラスのみ参加で運動会を行い、発表会は保護者に協力してもらい、学年ごとの入れ替え制で、三、四、五歳児の発表会を行いました。実際行ってみると、人数制限の成果か、見やすく良かったなどと好評でした。

この状況下で、行事を行うには様々な困難もありますが、もう一度、新たに行事の持ち方を見直し、職員皆で知恵を絞り、工夫出来る所は工夫して、子ども達の笑顔を支わない努力が必要だと思えます。

一日も早い終息を願いつつ、ウイルスに負けずに新

しい日常を送っていきましよう。

「室田保育園」

昨年度もあと数か月で終わろうとしていた頃、外国で発症し始めた新型コロナウイルス感染症が、毎日ニュースに流れるようになりました。当初まさか保育園にもその影響

が出てくるとは想像もしていませんでしたが、学校が急に休校となり学生たちがたくさん荷物を持って下校していく姿を見て、これは大変なことになっていくと認識しました。コロナウイルスの感染まん延防止の取り組みが始まる中、保育園生活最後の行事である「卒園式」をはじめ、これから保育園でどのように対応していかなければならないかを具体的に検討していく日々でした。卒園式は保護者のご理解ご協力を頂き手指消毒、マスク着用はもちろんですが、参列は数名の職員と卒園児として一家庭二名までと人数制限を行い、進行を簡略化し、時間短縮をはかり行いました。新年度に入り早々

に政府より「緊急事態宣言」が発出され、それに伴い保育園では登園自粛要請をいたしました。そのため通常より登園する子どもは減りましたが、手指消毒、保育園内の物品の消毒をしながら「密閉」「密集」「密接」の三密に心がけ保育をするようにしました。食事やおやつの中には、子どもたちは横一列に座り同じ方向をみて食べ、できるだけ話をしない何とも言えない雰囲気の中で進めていました。登園児が一クラス分の人数でも、いくつかの保育室を使い布団との間隔を広くとり午睡をしていました。「緊急事態宣言解除」を受けてからは、長期にわたり自粛していた子どもたちが登園し、通常の数となりました。この時期からは、保護者には、手指消毒してから園に入る・送迎保護者は原則一名・保育室には入らず、子どもの受け入れ引き渡しはテラスで行う。共有で使用していた受け入れ表は廃止したので、登園カードを提出する等お願いしました。

保育について子どもたちは、登園したら手指消毒をしてから遊ぶ。うがいは使い捨ての紙コップを使用する。食事はつい立を使用する。誕生会などの行事は屋外でなど今までの開催方法とはかえて行う等新たに加わりました。

消毒に関しては、使った玩具やつい立は、その都度消毒する。チェック表を使って保育室等の消毒をする。子どもは食事直前に手指消毒、テーブルもアルコール消毒をする。

職員に関しては、ペンの共有を避け、事務室の机にはつい立をつける休憩に限らず密にならないように時間や場所を分散させ、自粛期間中は在宅勤務を利用するなど行いました。行事についても、クラス懇談会等一つ一つ検討し中止や延期という対応を行っています。

今だ、新型コロナウイルス感染症は終息しておりませんが、どのように保育園生活に影響し続けるのか全くわかりません。手洗い、消毒、三密を避けるなど今できること

をしつかり行いながら、これから新に起こってくる事象には、有効な情報を得ながら一つ一つ対応していこうと思えます。

「初声保育園」

新型コロナウイルスが、最初に国内で確認されたのが昨年の一月十六日。神奈川県医療機関からの報告でした。

保育所におけるの新型コロナウイルス感染予防対策は、一月末ごろから、様々な資料が配布されるようになり、対応がスタートしたと思います。戦々恐々と見えないものにおびえながらも、すべての保育所では万全となるように、様々な取り組みが行われてきていたと存じます。

また、取り組む内容なども国を始め行政から発せられる指針などを熟読し、できるだけ子どもたちや、保育者に負担にならない形で、しかしながら自園からは感染者を絶対に出さないぞ！という対応を日々続けられているものと思えます。そんな中で、改めて保育所における、コロナウイ

ルス感染拡大防止の取り組みとして事例報告のような形では、きつとどの園においても、

同様な取り組みを当然ながら続けている最中ではないかと思えます。そこで三浦市は大変小さな市であり、市内にはすべての保育所としても四か所しか存在しないので、その

四園に今回の新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組む中で、何かそれぞれの園長たちが感じたことや、それぞれの園で話題になったことなどを、聞かせていただき、何かしらの形としてまとめられたら良いかと考えてみました。

それぞれの市内保育所園長に電話での聞き取りを行わせていただきました。問い合わせをさせていただいたのが、十月の終わりから十一月の初め頃だったので、丁度どの園も運動会を取り組んだ直後ぐらいだったので、その話を中心に聞かせていただくことができました。

本年度の運動会は、市内四園すべての園でプログラムの見直しには取り組んでいられ

て、それと並行して、観覧保護者への人数制限などの対応に大変苦慮されたとの事でした。

全園児を一度に集めて行うことはどの園もされておらず、未満児は本年度について参加を見送られた園や、年齢区分によって、二グループに分けて実施など、実施そのものの形を工夫されたという園が多かったです。

また、観覧保護者への配慮で、同一プログラムを参加する園児を調整することで、三公演実施したなどという園もありました。

どうしても参加する園児を調整したことによって、これまで取り組んでいた運動会の形では、本年度の運動会は実施できなかったようですが、それぞれの園での、保護者の反応は予想よりも良い結果となり、運動会の取り組みとしては、とても良い結果になったと感じていられました。

この運動会の実施方法などで見直しを行ったことで、園で取り組む行事を改めて、見

直してみたという園も多くありました。

保護者の希望は、「わが子を日頃見ている姿と違うものを見られること」というのが一番求められる事柄であり、その求めにこたえられるような形で、行事を実施すると、おむね良好な結果になるといことが分かったと考えている園が多かったです。

今回は運動会の取り組みを中心に話を聞かせていただきましたが、保育所ではこの先生活発表会やお遊戯会、そして卒園式など大きな行事が控えている時期となっていていると思います。今までしていないかった取り組みが、日常の取り組みとして定着し始めて、新様式が多く生まれてきています。保育園での行事などもこれから先、新様式での取り組みなどがいろいろあるところから発表されることがあるかもしれません。

最後に城ヶ島保育園、三崎二葉保育園、上宮田小羊保育園ご協力ありがとうございました。



令和二年度 キャリアアップ研修 「リーダーシップの理解」

令和二年十月二十七日(火)
十二時三十分より帆船日本丸
訓練センターにて湘南ケアア
ンドエデュケーション研究所
元東京家政大学・大学院 教
授 増田まゆみ氏を講師に迎
えて本研修が行われました。

前回同様に新型コロナウイルス
ルスに対する感染症対策を万
全に行った中での開催となり
ました。多くの受講生の協力
のもと無事に行うことができ
ました。

本研修では、テキストをも
とにした講義形式、映像を観
ながら受講生が感じたことを
書き出し、各場面に対してど
のような思いがあるのかなど
考える研修が行われました。

はじめに、保育の基本(保
育を担う者に求められること
一人ひとりの子どもをかけ
がえのない存在として保育を
担う者、子どもを保育すると
ともに、子どもの保護者に対
する保育に関する指導を行う。

子どもの保育と保護者支援
は、難しいことです。日々の
保育経験や学びを通して、積
み重なっていくものです。そ
してそれを他者に理解できる
ように伝えることが大切だと
思います。自分自身が理解し
ていること・感じていること
を他者に的確に伝えていくこ
との難しさは誰もが感じてい

ることでありそれができてこ
そのリーダーシップやマネジ
メントに繋がっていくのだと
感じました。

マネジメント力、言葉だけ
だとすごいことをしているよ
うに感じますが、まずは一人
ひとりの良さを見つける。そ
してその良さを認めることで
さらなる良さが芽生えてくる。
求められるのはリーダーシッ
プを発揮する職員の存在だと
いうこと。



そもそもリーダーシップと
は、何なのか。ドラッカー「プ
ロフェッショナルの条件」よ
り組織の使命を考え抜き、そ
れを目に見える形で明確に確

立すること、リーダーとは目
標を定め、優先順位を決め、
基準を定め、それを維持する
者である。リーダーシップは、
才能や性格に左右されるので
はなく「仕事」である。リー
ダーシップは、一人ひとりが
見につけるべき能力である。

またリーダーシップを五つ
に分けることができる。①管
理運営に関するもの②教育に
関するもの③コミュニティに
関するもの④概念的なもの⑤
アドボカシーに関するものと
いう五つに整理されている。

ここでのリーダーシップは、
単に経験年数がある者だけで
はないということだ。リーダ
ーシップになり得る者は職員
全員が対象である。何に特化
しているのか、得意な分野が
何なのかを一人ひとりが理解
し、他者に伝えることができ
る力を持つ者がリーダーでは
ないのだろうか。そして一番

重要なのは職員全体を理解し
まとめることのできる者、若
手からベテランまでそれぞれ
の意見・良さを認めることが
できる者、そのような者によ

り、より良い雰囲気職場環
境を構築することができ、さ
らなる発見をし、違う分野で
の活躍ができるのではないかと
感じました。

次に保育所等のマネジメン
トは、組織マネジメントと保
育マネジメントで構成され、
相互に関連し合い、重なり合
って営まれている。

近年、自己肯定感が低くな
ってきている。どうして低く
なってしまったのか。まずは
子どもを肯定していこう。子
どもの声をしっかり聞いてあ
げよう。子どもの表情を見逃
さないようにしよう。そして
温かなまなざしで応えてあげ
よう。普段忙しいを言い訳に
して、小さな声を聞き逃して
しまうことや表情の変化を見
逃してしまう事があるなど反
省いたしました。

子どもたち全員に耳を傾け
ることは確かに時間や人数的
に厳しいところはありますが、
できる限り応える気持ちを大
切に今日からまた頑張ってい
こうと思えました。
ありがとうございました。

令和二年度 キャリアアップ研修 「食育計画の作成と 活用・食育・アレルギー対応」

令和二年十月二十九日(木)、神奈川県民ホール六階大会議室にてフードコーディネーター・栄養士 ラヴアリエ代表 森野恵子氏を講師に迎えて行われました。本研修は朝から一日を通しての研修になりましたが、三十二人の受講生に参加していただきました。また受講生にご協力いただきました。新型コロナウイルス感染症対策を万全に行い、本研修会を開催いたしました。



午前中は、テキストをもとに講義形式で行われました。午後からは、講義の続きと写真・映像をもとにグループワークが行われました。

食育とは、その人の食べ方、食習慣、おいしさを感じる五感、さらには幼児期の食体験が豊かな人間形成にまで影響を及ぼす影響があるとまで言われています。そして人間が生きていくには食べるということがとても大切になります。そこで保育所では、どのような食育ができるのでしょうか。そしてそれを保護者にもどのように発信していけば良いのでしょうか。はじめに日本の行事食と一緒に作って楽しみましょう。保育所では、日本の行事食を大切にしています。最近では保護者が行事食を子どもに伝えることが減つ

てきていると伺いました。そこで、保育所での経験を保護者にもしていただき子どもと同じ気持ちを持っていただくことでとてもいい経験になるのではないかと思います。



次に「おいしい」という感覚を知らせてあげたい。ここでは、おいしいをマヨネーズやケチャップ任せにするのではなく、素材の味やにおい、自分で作ったことに対する味のおいしさを教えてあげるにはどうしたらいいのか考えました。畑作りから栽培、自分たちで育てた食材を使って料理を行うなどたくさんのお話を聞くことができました。今しかできないことを子どもた

ちと経験しながら同じ空間・同じ食事をするということは子どもたちにとっても大切な経験であり食育なのではないかと感じました。そして、同時に保護者も一緒に参加できるような体験を考えていきたいと思いました。

グループワークでは、園で今やっていること・どのようなことを話してみたいかを話し合いました。行事食はこの園でもやっていますという声が多く聞こえてきました。また畑や栽培、園庭にある梅の木やみかんの木などから実際に子どもたちが摘んできて調理をしているといった話もありました。そして驚いたのが、子どもたちが生魚(秋刀魚)の内臓を取り出して七輪で焼いて食べるというお話でした。機会があれば、ぜひ真似したいと思ってしまうました。できたらやりたいことでは、各グループの話し合いで出てきたことを中心に自分たちの園でもやってみようといううな声が多くありました。園

によって環境は違いますが工夫をすれば似たようなことができるのではないかと意見を出し合いながら話し合っている姿が見受けられました。

最後になりましたが、本研修の中で、何をどれだけ食べればいいのか、誰とどのように食べればいいのか、楽しく食べるためのマナーなどたくさんのお話を学ばせていただきました。自分自身、人に教えられるような食育ができていくかと問われると頷けません。が、未来ある子どもたちには正しい食育を伝えていかなければならないと改めて反省いたしました。ありがとうございました。



この機関紙は、共同募金配分金により発行しております。